

C-68 トルコ民族服の下衣について  
大阪薫英女短大 ○松本敏子

目的 民族服は各国、各地方の伝統的な風俗、習慣を端的に物語る良き資料である。1976年、家政学会懇親会に於てネパールの民族服の研究発表を行つたが、その追跡調査の一環として、今回トルコの下衣について報告を行うものである。

方法 1977年3月から4月にかけてトルコの現地調査を行い、民族服の資料としては、この国の地方に残存する村の古い民族服數点を考察した。然る後実物大衣服の復元を試み、被服を構成する要素を探究して見た。衣服の名稱及び着裝形態に関するところでは、英語及びトルコ語による聞き取り調査を中心とした。文献は現地購入のものを多く採用した。

結果 トルコ民族は、かつて広大な草原地帯に住んでいた遊牧・騎馬民族の末裔である彼らの衣服は、その昔の生活形態とよく伝えている。

王族貴族の衣服は權力者としての威儀を示す目的で最大であるのに、ひざから太ももの間の大衆的な民族服は、常に働く生活と密接に結びついている。装飾も用の美と一致し合理的であり、簡素である。トルコの民族服はその最盛期、戦争や侵略、又交易によって遠く東方や西方の他民族に大きな影響を及ぼしている。

今回の調査研究によつて、トルコ民族服の歴史及び現状を探究すると同時に、ネパールの一部民族服の源流を確認することが出来た。